

図書だより

図遊学館よも～よ ☎582-5388

／ 今月のおすすめ ／

浪江町の歴史を知ろう



一般書

浪江町赤宇木の記録 百年後の子孫（こども）たちへ 赤宇木記録誌編集委員会：編・出版

福島県浪江町の帰還困難地域である、赤宇木地区のすべてを収録した「記録誌」が、今年の3月に完成しました。10年もの長い年月をかけて、住民への聞き取りや古い資料をこつこつと集めることで、古代から震災後に至るまでの膨大な資料を、100年後の未来へ託すため、まとめ上げた作品。

多くの人に見てもらいたいと、遊学館よも～よへ、2冊寄贈していただきました。1冊は保存用に、もう1冊は貸出用となっています。桑折町には原発事故後、浪江町から避難され、現在も住み続けている方がいらっしゃいます。興味のある人はぜひご覧ください。



夏休みの課題図書、取りそろえています。
インターネット予約をご利用ください。

涼しい図書室で 快適に学習しませんか

暑さ対策として、涼しい図書室で本を読んで過ごすのもひとつの選択肢。遊学館よも～よでは、この時期、夏におすすめの本や宿題に役立つ本も取りそろえています。手続き不要で、自由に利用できる学習スペースもありますので、冷房の効いた図書室で、快適にお過ごしください。



INVITING COMMUNITY
ZONE FOR EVERYONE

生涯学習だより

過去最多のチーム数で大熱戦 館長杯ポッチャ大会

第8回目を迎えた「館長杯ポッチャ大会」が6月19日、イコーゼで行われ、初めて参加する人も含めて、過去最多となる36人が熱戦を繰り上げました。

12チームに分かれて行われた試合は、終始和やかで楽しい雰囲気が進みました。ポッチャは、白い目標球に向かってボールを投げたり転がしたりして近さを競い合うスポーツ。試合中には、「ナイスショット!」「惜しい!」などの声もあがり、初めての人でも楽しめる大会となりました。最後に、伊藤好幸館長から上位3チームと健闘した1チームに景品が贈られました。

今回から「こおり健康ポイント」の対象となり、参加する楽しみが増えたという声も。冷房の効いた場所での運動に心も体もほぐれ、多くの笑顔がはじける大会となりました。



マルベリーこおり 尾瀬アヤマ平を満喫



尾瀬アヤマ平ハイキング（中央公民館共催）が7月6日から7日の2日間にかけて行われ、12人が参加しました。

すっかりしない梅雨空が続いていましたが、参加者の皆さんのパワーのおかげで天候が回復。アヤマ平と尾瀬ヶ原で、多くの花々や生き物を観察したり、写真を撮ったり、天上の楽園と称された尾瀬の大自然を満喫しました。

■問い合わせ
事務局 ☎582-3129

歴史だより

図教育文化課 ☎582-2403

ふるさと歴史講座第1回 五代が日本一にした、半田銀山の歴史



全3回の「ふるさと歴史講座」のうち、第1回目が7月6日、桑折公民館で開かれました。町教育委員

会学芸員が講師を務め、22人が参加。五代友厚が再興してから今年で150年を迎える「半田銀山」について、特に「五代が日本一の銀山にした歴史」を学びました。

参加者からは「五代友厚が半田銀山に来たことを、初めて知った」「今まで半田銀山が生み出した富は、みんな大阪に行ってしまったと思っていたが、地域が非常に潤っていたことが分かった」などの感想が寄せられました。今年11月10日に開催予定の「半田銀山シンポジウム」に向けて、気運が高まりつつあります。



万一に備えて マイ避難を考える

成人講座「マイ避難推進講習会」が6月2日、イコーゼで行われ、20人が参加しました。

マイ避難とは、日ごろから一人一人が自分に合った適切な避難行動について考え備えること。県のマイ避難推進員を講師に迎え、災害時の正しい避難行動について学びました。参加者は、いざという時に慌てずに避難できるように、自宅周辺のハザードマップを確認。万一の際、それぞれがとるべき行動について考え、「マイ避難シート」を作りました。



生態を学ぶ メダカ飼育教室

成人講座「メダカ飼育教室」が6月9日、イコーゼで行われ、8組11人が参加しました。

熱帯魚専門店「ペンギン村」（福島市）の加藤和倫（かつり）店長が講師を務め、参加者はオスとメスの見分け方やエサの与え方、水の換え方などの基本的な飼育方法を学びました。また、会場にはメダカの卵と稚魚、特徴的なメダカも展示されました。加藤さんは「大切に育ててくださいね」と呼びかけ、メダカのペアと飼育セットを手渡しました。



作る過程楽しむ ペーパークラフト

キッズスクール「ペーパークラフト」が6月23日、イコーゼで行われました。町のゆるキャラ「ホタビー」と福島県の鳥「キビタキ」の製作に挑戦。好きな方を選んで、まずは型紙を切り抜きます。細かな箇所もあり、子どもたちは少し苦戦気味。真剣な表情で丁寧に折り目を入れたり、爪楊枝でボンドを付けたりしながら、出来上がる工程を楽しみました。無事に完成すると、「かわいい」「手はどの向きにしようかな」などと、作品に愛着が湧いている様子でした。